

学校給食施設整備にかかる Q&A

<p>自校方式とセンター方式を十分比較の上で方針を決定するべきではないですか？</p>	<p>議会からもまさにこの求めがあり、このほど自校方式とセンター方式の経費試算を揃え整理させていただきました。</p> <p>一方で、前川町長の方針としては、従前から自校方式とセンター方式比較の結果如何によらず、一貫して、災害や食中毒リスクの分散や子どもたちに出来立ての給食を提供できるという利点から、自校方式を進めるという考えでありました。</p>
<p>施設整備費について、給食センターは実施設計、自校方式の各校給食室は基礎的な検討に基づくものであり、そもそも比較に適さない数字ではないのですか？</p>	<p>実施設計に基づく金額と基礎的な検討に基づく金額では、単純に比較できるものではありませんので、この資料も参考としての位置づけを出ないかもしれませんが、センター給食施設については平成30年度に実施設計が一定出来上がっている段階まで進んでいたため、これを基に金額を求めました。</p>
<p>検討委員会で出されたセンター方式での施設整備費は、約9億2千万円となっていました。今回の実施設計に基づく経費試算では、それが約12億円となっています。</p> <p>このことから言えば、今回の自校方式の各校給食室の基礎的な検討に基づく約10億円は、実施設計をしてみると12億円を大きく上回る額になるのではないですか。</p>	<p>今回の自校給食の施設整備費は、あくまでも基礎的な検討に基づく試算ですので、実施設計後の金額を保証するものではないですが、今回の検討結果をベースに設計を進める限りにおいては、多少の増額は生じたとしても、基本的には今回の試算額を大幅に超えるようなことはないものと考えています。</p> <p>なお、センター方式での実施設計額が検討委員会での試算額を大きく上回った大きな要因は、2階に会議室を設置することなどにより、当初想定よりも延床面積が増加したことによるものと考えています。</p>

学校給食施設整備にかかる Q&A

<p>自校方式の各校給食施設面積は、平成 28 年度の検討委員会で示された施設面積よりも小さい面積となっています。</p> <p>施設整備費を抑えるために、恣意的に小さくしたのではないですか。</p>	<p>今回の自校給食の検討にあたっては、大前提として、グラウンドを除く学校敷地内において、学校給食衛生管理基準に適合した給食施設が整備できるかについて、検討を進めてきました。</p> <p>その検討結果として、当初想定よりも小さな施設面積で学校給食衛生管理基準を満たす施設が整備できることが確認できたものであり、恣意的に面積を小さくしたということはありません。</p>
<p>平成 28 年度の検討委員会の時となぜこんなに金額が違うのですか？</p>	<p>平成 28 年度の検討委員会当時は、各給食室ともに具体の施設図面の想定がなかったため、施設面積を喫食数×約 0.8 m²で想定し、そこに想定される m²単価を乗じて試算していました。</p> <p>これに対し、今回とりまとめた経費試算結果は、各施設ともに、「実施設計」「基礎的検討」という違いはあるものの具体の施設整備内容の想定を得たうえで、電気設備、機械設備、建築費それぞれに係る費用を試算して積み上げたものとなっており、各施設とも検討委員会当時とは施設面積が異なっているほか、m²単価も結果として当時の想定よりも高いものとなっています。</p>
<p>この経費試算は、平成 28 年度の検討委員会の内容を覆すものであり、町としてセンター方式の方が安価としていた当時と逆のことを示すのですか？</p>	<p>このほど、議会からの求めもあり自校方式、センター方式のそれぞれに係る経費の試算を改めて行った訳ですが、決して結果ありきで恣意的に検討を進めたわけではなく、自校方式、センター方式それぞれについて真摯に検討を進めた結果、今回の試算に至ったものです。</p>

学校給食施設整備にかかる Q&A

<p>今後、学校給食施設の整備はどのように進めていく考えですか。</p>	<p>令和 2 年大山崎町議会第 2 回定例会に提案しました、小中学校給食施設整備の基本実施設計業務委託料を含む補正予算案が、修正動議による議員提出議案が可決されたことにより当該部分が削除されたわけですが、PTA の皆様に対しては、町が議会に対してお示しした各整備プランの説明の場を設けさせていただきたいと考えています。</p>
<p>大山崎小学校において、高齢者ふれあい広場に建設する C 案を想定する理由は何ですか？</p>	<p>議会からのご指摘も参考に、特に安全性の面、学校環境への影響の面で、中庭に建設する B 案よりも優れていると考えているものです。</p>
<p>第二大山崎小学校において、現給食室を改修・増築する D 案を想定する理由は何ですか？</p>	<p>学校環境への影響面が大きい E 案は工事費も高く、デメリットが大きいものと判断しています。</p> <p>そして、現給食室を一旦解体、建て替える F 案では、解体作業に伴う騒音が生じることや、給食エレベーターが撤去され大山崎小学校からの給食配送を要する期間中、階段による配膳を余儀なくされるなどの影響が生じることから、最も学校への影響が少なく工期も短い C 案がベターであると考えているものです。</p>
<p>大山崎中学校給食室は複数案比較検討しなかったのですか？</p>	<p>子どもたちへの影響を抑えるため、グラウンドへの設置は検討除外としたので、学校敷地条件から選択肢は職員駐車場のみとなったものです。</p>
<p>大山崎中学校の学校環境への影響が大きいのではないですか？</p>	<p>学校への影響は、大きくは①職員駐車場の喪失、②多目的室・保健室の採光の悪化が生じることを想定しています。</p> <p>①については、中学校向かい側の町体育館第 2 駐車場等に職員駐車場機能を移転させることで解消できると考えています。</p> <p>②については、照明の増設などで対応することも一つではないかと考えています。</p>

学校給食施設整備にかかる Q&A

<p>調理業務委託について、3社から見積もりを取っているようですが、各社の人員配置の想定は法令に適合しているのですか？</p>	<p>調理員数については、学校給食衛生管理基準上の規定はなく、国から示されている「学校給食調理員数の基準」(S35 文部省)において、参照すべき基準として児童・生徒数に応じた人数が示されています。</p> <p>見積を頂きたいずれの業者も、町が示した施設図面や喫食数などの一律の前提条件に基づき、それぞれ必要な人数を検討された結果、この基準を大きく上回る人員配置で見積もられているものです。</p>
<p>現給食施設にアスベストは含有されていないのでしょうか？</p> <p>またその対策に要する費用はどの程度かかるのでしょうか？</p>	<p>アスベストが含まれているかの調査費用は約 15 万円。施設解体の際のアスベスト除去に係る費用は、2～3 万円/m²程度と確認しており、これらは今回の経費試算には含んでおりません。</p> <p>ただし、大山崎小学校では C 案の想定において、新施設からの校舎への搬入経路として、現給食室は引き続き活用する想定となるため、現給食室の解体は生じず、アスベスト対策は不要となります。</p> <p>また、第二大山崎小学校についても、D 案の想定において、現給食室を解体せず引き続き活用するため、大山崎小学校同様、アスベスト対策は不要となります。</p>